

JANPIA主催・経団連後援 東京マッチング会 成果報告会 | 事例紹介①

企業との連携が、生徒の「未来」を広げる

休眠預金活用事業 × 有限責任あずさ監査法人様との連携事例

NPO法人キャリアbase 理事長 草場 勇介

2026年7月16日

— 学校と社会の架け橋に ～いきる力をともに育む～ —

キャリアbaseについて — 学校と社会の架け橋に



学校と社会の架け橋に

～いきる力をともに育む～

1都3県（東京・神奈川・埼玉・千葉）の通信制高校に通う高校生へ、学校と連携したキャリア支援を行っています。

（拠点：千葉県柏市）

延べ 38,291名

キャリア教育 受講生徒数

延べ 329校

キャリア教育 実施学校数

累計 520名

個別就労支援 人数

延べ 453名

居場所 利用人数

※2026年6月1日現在

5つの活動



キャリア教育

1都3県の高校を中心に、ガイダンス・特別授業を実施



校内キャリアサロン

学校の中に、“第三者の大人”に相談できるつながりの場を



個別就労支援

進学や就職に悩みを抱える生徒に個別の進路相談・伴走



居場所運営

「ふらっぽ北柏」「ふらっぽ流山」を運営



政策提言・講演活動

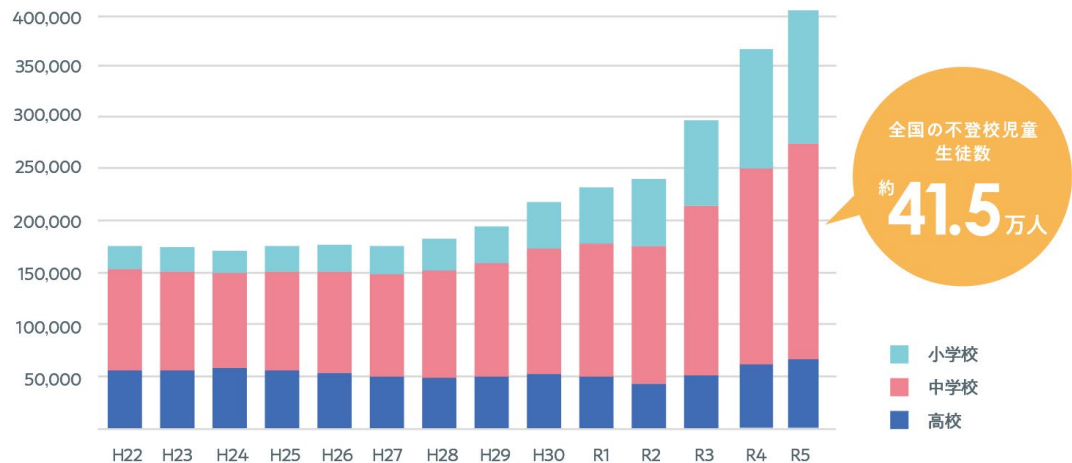
安心して社会に出るための仕組み・制度づくりへ提言

私たちが取り組む社会課題 通信制高校を取り巻く現状①



増え続ける不登校の子どもたち

不登校の児童・生徒数の推移



資料「令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果より」(文部科学省)

子どもの不登校は
増加の一途

小学校～高校までの
全国の不登校児童数



約 **41.5** 万人

私たちが取り組む社会課題 通信制高校を取り巻く現状②



増加する通信制高校と、通信制に通う高校生

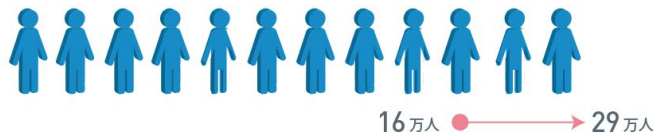
高校の生徒数の推移

平成元年 → 令和6年

全日制高校



通信制高校



資料『学校基本調査（平成元年度）』及び『学校基本調査（令和6年度）』（文部科学省）

通信制高校に通う生徒

5割弱 転・編入生
(高校中退・不登校の経験者)

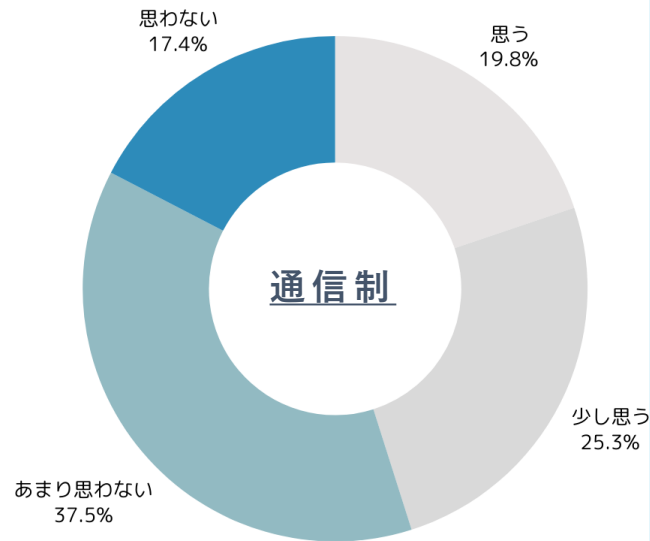
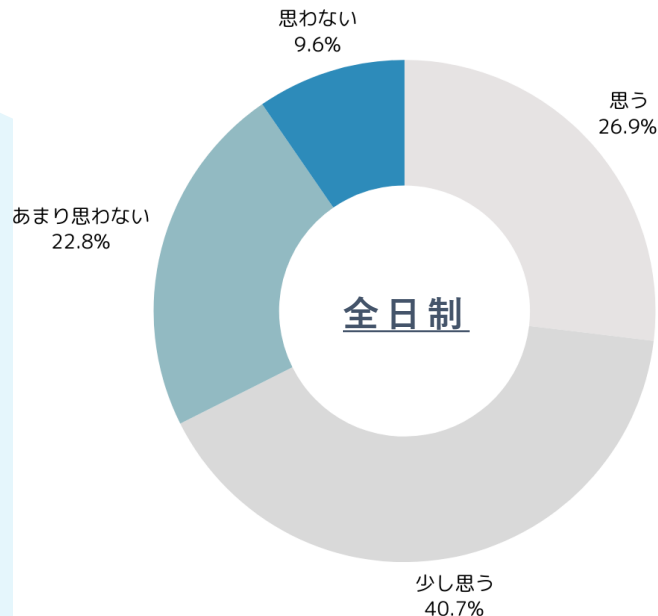


通信制高校の現場で今起きていること生徒が抱える見えにくい課題①



全日制・通信制比較でみる「自己肯定感」

Q：自分は誰かの役に立っていると思いますか？

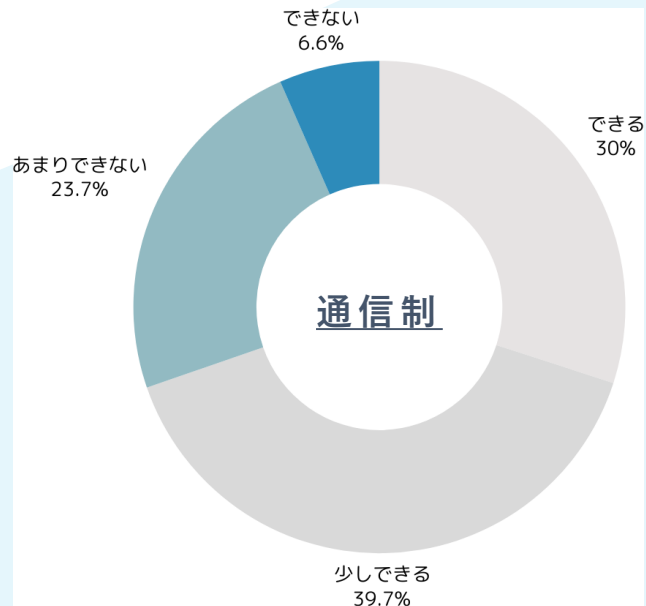
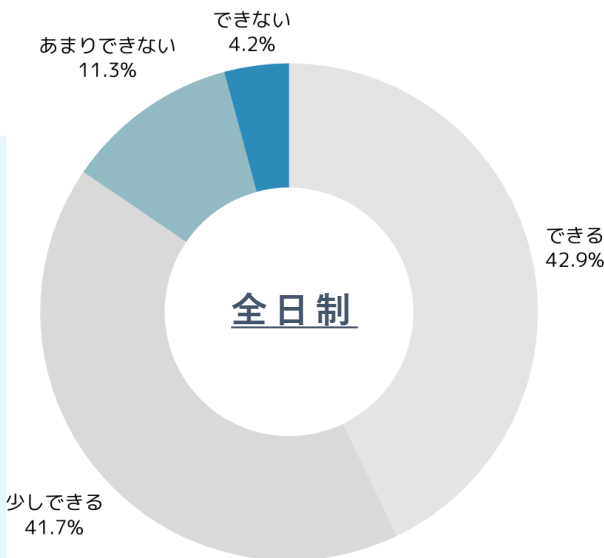


通信制高校の現場で今起きていること生徒が抱える見えにくい課題②



全日制・通信制比較でみる「自己肯定感」

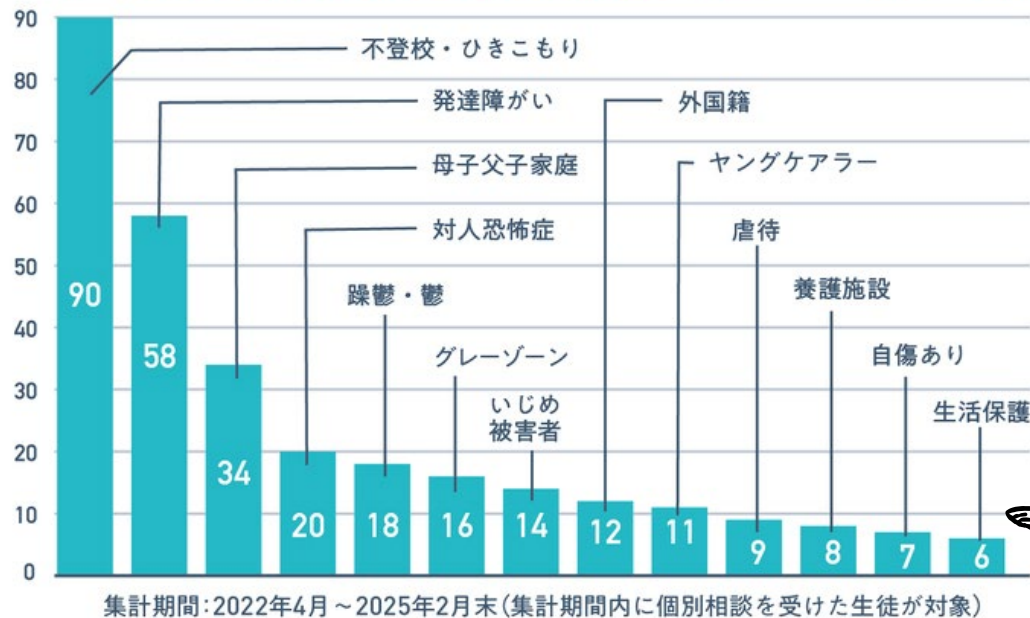
Q：自分が何かしたいと思った時に行動できますか？



通信制高校の現場で今起きていること生徒が抱える見えにくい課題③



キャリアbase支援生徒が抱えているハードル一覧



生徒の多くは、
複数のハードルを
抱えている



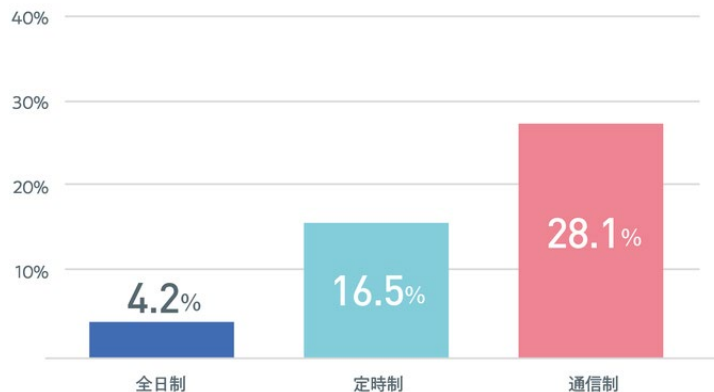
などなど





“進路未決定”の現実と、更なる社会的孤立

高校卒業後の進路未決定率



「令和6年度学校基本調査」(文部科学省)



進路未決定のまま
卒業を迎える
通信制高校の生徒

2.3 万人

進路未決定のまま卒業を迎える高校生
たちは、卒業後さらに社会的に孤立を
深めてしまいます。

休眠預金活用事業の概要

校内キャリアサロン 全国展開モデル構築事業

通信制高校生の進路未決定と卒業後の孤立を防ぐ、全国型支援モデルの確立

事業期間

2025年10月～2028年2月

3つの取組



① サロン運営と支援モデルの構築

運営ノウハウ・成功事例を体系化し、他団体でも導入可能なモデルへ



② 支援人材の育成サポート体制づくり

デビュープログラムと継続学習プログラムで支援者を育成



③ 行政等への提言に向けた実践と検証

成果をエビデンスとして蓄積し、制度化・予算化に向けた提言へ

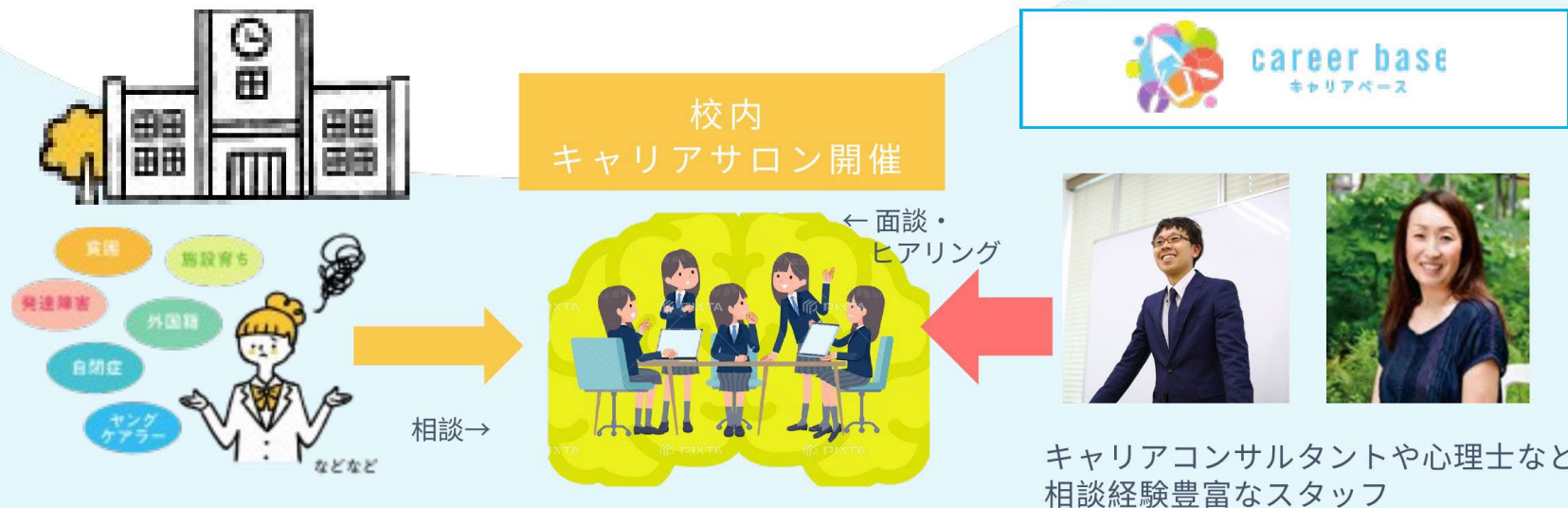
2028年2月時点の数値目標（計画値）

サロン導入校	40校（うち有償20校）
延べ利用生徒	2,760名
支援人材	35名
企業協賛事例	3社

④ 活動紹介 校内キャリアサロンの取り組み



進路・就職活動に悩みや不安を抱える生徒たちが、学校外の大人に気軽に相談できる場として設けるサロン。
週1回～通信制高校のキャンパス内に設置し、各校担当のキャリアサポーターが運営しています。



事業のロジックモデル — 活動から社会の変化へ

活動（2025.10～）

- ・ 校内キャリアサロンの設置・運営（月2回開所）
- ・ 個別キャリア面談・職業講話『とりどりさんの場合。』
- ・ 支援人材の募集・育成（デビュー／継続学習プログラム）
- ・ 企業開拓・シンポジウム・行政への提案

短期アウトカム（～2028.2）

- ・ 生徒：不安や孤立を抱える前に相談できる状態が広がる
- ・ 先生：学校側が継続的なサロン運営を望み、有償導入が進む
- ・ 支援人材：研修を経て高校現場にデビューしやすくなる
- ・ 企業：協働や制度化への関心・具体的な動きが生まれる

中長期アウトカム（3～5年）

- ・ 民間連携型キャリア支援モデルとして社会的に確立
- ・ 80校に普及・有償導入40校・協賛企業10社（計画値）
- ・ 社会の関心が高まり、人材・企業・政策のリソースが集まる

最終的に目指す姿：進路未決定のままの卒業や若年層の孤立が減り、誰もが自分らしく学び・働き・暮らせる包摂的な社会へ

あずさ監査法人様との連携 — 双方向のリソース活用

東京マッチング会での出会いを起点に、3つの連携が生まれました



連携① | 2025年12月26日

イベントへの ボランティア参加

「通信制高校生のためのクリスマス会」
(居場所ふらっぱ北柏)に職員の皆さまが
ボランティアとして参加。生徒と一緒に
ガイダンスやゲームを楽しみながら交流



連携② | 2026年6月15日

社内ランチタイム ミニ講演会

あずさ監査法人様主催のオンライン講演会
に代表・草場が登壇。録画視聴を含め85名
超のお申し込み。クリスマス会参加職員に
よる活動紹介もあった。後にボランティア
登録も数名から。



連携③ | 2027年1月予定

職業講話への 講師登壇

職業講話『とりどりさんの場合。』に職員
の方が講師として登壇。監査という仕事の
リアルを生徒へ

職員の皆さまの「参加体験」が社内講演会につながり、講演会が次の関わりを生む — 連携が連携を呼ぶ好循環

連携①：通信制高校生のためのクリスマス会

当日のプログラム（居場所「ふらっぽ北柏」）

1

自分を好きになるガイダンス

過去の嬉しかったエピソードを書き出し「嬉しいの分解」。
グループ発表では共感と気づきの声が続出

2

みんなでピザ&ケーキランチ

食を囲むことで、初対面同士の緊張が自然とほぐれていく

3

ゲーム大会

トランプ・UNO・ボードゲームで、小学生から大人までがごちゃまぜに交流

この連携の狙い

生徒が「親や先生以外の多様な大人」と出会う機会をつくる。企業の皆さまには、支援の現場と生徒のリアルを肌で感じていただく

寄ってたかってキャリア教育

多様な大人が「寄ってたかって」生徒に関わることが、キャリアbaseの支援哲学。企業人材の参加は、生徒にとって社会への信頼を育む貴重な接点になります

連携②：社内ランチタイムミニ講演会

85名超

のお申し込み（録画視聴含む）
ランチタイムのオンライン開催

クリスマス会に参加された職員の方の活動紹介からスタート

講演内容

- ・「18歳で未来を諦めさせない」ミッションと活動紹介
- ・通信制高校の現状：10人に1人が通う時代、約3割が進路未決定のまま卒業
- ・場面緘黙のある生徒が、企業や大人との出会いを通じて自信を育み、自らの意思で就職に挑戦した事例
- ・質疑応答：「通信制高校にはどんな生徒が増えているのか」

参加者アンケートより

“

統計データだけでなく現場の実例があり、課題を具体的に捉えられた

“

「自分にも何かできるかもしれない」と感じた。インターンシップ提供、職業講話への協力、寄付やボランティアなど関わり方を考えるきっかけに

“

若者の変化や成長につながった事例を、今後さらに知りたい

連携がもたらした変化と気づき



組織・事業に生まれた変化

- 生徒が出会える「大人の多様性」が広がり、支援の質そのものが向上
- 企業職員の方がボランティア→講演会→職業講話と、段階的に参画する回路ができた
- 「体験→共感→行動」の企業連携プロセスを、他社にも展開可能な型として獲得



連携して感じたこと

- 良かった点：現場体験が先にあることで、講演会の熱量・当事者性がまったく違った
- コーディネーター（キッズドア様）の伴走が、企業との信頼構築を大きく後押し
- 改善点：単発で終わらず、関わりの選択肢を継続的に提示する設計が必要

企業との連携は「資金」だけではない。人・知見・機会という多面的なリソースが、生徒の未来の選択肢を直接広げていく

他企業との連携も、広がっています

あずさ監査法人様に続き、多様な企業との連携が生まれています



2026年8月25日 実施予定

1Day就労体験 プログラム

イケア・ジャパン株式会社

生徒が“働く”を身近に感じる機会として、就労体験プログラムを実施予定です。



2027年1月 開催調整中

バスケットボール クリニック

ENEOSリニューアブル・エナジー株式会社

柏を拠点とするENEOSサンフローズと連携し、地元の通信制高校生を中心にバスケットボールクリニックを開催予定です。

連携の輪はあずさ監査法人様から他企業へ — 生徒の未来を広げる動きが、着実に広がっています

FUTURE



今後の展開 — 連携を「点」から「面」へ



「〇〇高校×△△企業」協賛モデル

企業が特定の学校のサロンを支える共創型モデルの確立へ。



シンポジウム開催（2027年予定）

教職員・行政・支援人材・企業が集い、通信制高校生支援の社会的認知を高める場へ。企業の皆さまのご参画をお待ちしています



関わりの選択肢を多様に

ボランティア・職業講話・インターンシップ提供・協賛・寄付 — それぞれの企業に合った関わり方を設計します

学校と社会の架け橋に — ご清聴ありがとうございました